

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 - 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1302015
	③		福祉	H1601031
	④		福祉	H1501010
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認証保育所A型・B型			
評価対象事業所名称	ココファン・ナーサリー旗の台			
事業所連絡先	〒	142-0064		
	所在地	東京都品川区旗の台3-7-2		
	TEL	03-5749-5101		
事業所代表者氏名	園長 宮崎 章恵			
契約日	2019年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 9月 17日			
利用者調査結果報告日	2019年 11月 22日			
自己評価の調査票配付日	2019年 8月 19日			
自己評価結果報告日	2019年 11月 22日			
訪問調査日	2019年 11月 27日			
評価合議日	2019年 11月 28日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は直接匿名で評価機関に郵送して頂き、意見が言い易い様に配慮した。評価は事業所の保育理念・方針・目標をどの様に実践しようとしているのか、そのプロセスを組織運営の専門家と保育現場を熟知した専門家が丁寧に確認し、偏りが無いように合議を重ね公平・公正な評価を心掛けた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 1月 24日

事業者代表者氏名 代表取締役 小早川 仁

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【学研ココファングループ理念】 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します</p> <p>【保育方針】 ★子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 ★子ども一人ひとりの認知・発達に応じた個別の発達支援 ★地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援</p> <p>【保育目標】 ★基本的な生活習慣が確立した子 ★心も体も自立した子 ★自律した行動がとれる子 ★他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子</p> <p>【ココファン・ナーサリーの取り組み】 ★子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします ★子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します ★養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)心身共に健康であること</li> <li>2)責任感を持って職務にあたる事</li> <li>3)他者とのコミュニケーションがしっかり取れる事</li> <li>4)自分が何を求められているのかを理解し、それに向けた努力を惜しまない人</li> <li>5)謙虚さを持ち合わせ、先輩、上司からのアドバイスや指導を聞くことが出来る人</li> </ol> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>職員に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)心身共に健康であり責任感を持って最後まであきらめずに仕事をやり遂げようと努力をしてほしい。</li> <li>2)保育の質を上げる為の努力(研修参加、資料集め等)実践、見直す力を持ち、職員間で話し合いができるようになってほしい。</li> <li>3)それぞれの職種を理解し、職員同士認め合い受け入れる努力をし、互いに切磋琢磨して成長する気持ちを持ってほしい。</li> <li>4)常にプロ意識を持ち仕事をしてほしい。</li> </ol>

調査対象	利用する全園児の保護者を調査対象とした。（兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人とした）
調査方法	保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。
利用者総数	14
利用者家族総数（世帯）	14
共通評価項目による調査対象者数	14
共通評価項目による調査の有効回答者数	11
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	78.6

**利用者調査全体のコメント**

総合的な満足回答は「大変満足」73%「満足」27%で満足以上の回答計が100%と大変高い評価であった。項目別には90%以上の「ハイ」回答の項目は「園での活動が心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「食事は配慮されているか」「戸外遊びは十分確保されているか」「時間変更は柔軟に対応してくれるか」「安全対策は十分か」「行事日程は配慮があるか」「園内は清潔か」「職員の言葉づかいは丁寧か」「怪我など職員の対応は信頼できるか」「子ども同士のいさかいの対応は適切か」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」「保育内容の説明は分かり易いか」「不満・要望はきちんと対応してくれるか」等であった。80%以上の項目は「職員と相談することが出来る信頼関係があるか」「第三者委員に相談出来る事を説明してくれたか」等であった。70%以上の項目は「プライバシーは守ってくれるか」等であった。90%以上の「はい」回答項目が14項目と多く大変高い評価であった。

**利用者調査結果**

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	10	1	0	0
「はい」回答率は91%「どちらともいえない」回答率は9%で大変高い評価であった。自由発言としては「保育園に行きはじめて、つまり立ちや色々な表情も覚えて帰ってくるので、毎日楽しい日々を送れています」「子供は園に行くのをいつも楽しみにして、すくすく成長しています」等であった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	11	0	0	0
「はい」回答率は100%と極めて高い評価であった。自由発言としては「体力限界まで動き、一つにまとめたり、活動をしてくれて感謝してます」「いろいろな遊びや体験をさせていただき、有難いです」等であった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	10	1	0	0
「はい」回答率は91%「どちらともいえない」回答率は9%で大変高い評価であった。自由発言としては「食育含め色々な体験をさせて頂き有難いです」「担任の先生は勿論、栄養士の先生も食育を通じて保育面でサポートしてくれて、相談し易い雰囲気がある」等であった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	11	0	0	0
「はい」回答率は100%と極めて高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	0	0	2
非該当欄の2名の方を除くと、「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「とても柔軟に対応して下さい安心感があります」等であった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	10	1	0	0
「はい」回答率は91%「どちらともいえない」回答率は9%で高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	11	0	0	0
「はい」回答率は100%と極めて高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	9	2	0	0
「はい」回答率は82%「どちらともいえない」回答率は18%で高い評価であった。自由発言としては「話をすると、自分の子育てエピソードを話してくれて参考になります」等であった。中には「人による」との発言も見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	10	0	0	1
「はい」回答率は91%で大変高い評価であった。自由発言としては「非常に清潔です」等であった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	1	0	1
「はい」回答率は82%「どちらともいえない」回答率は9%で高い評価であった。自由発言としては「子供の接し方も丁寧で、たくさんのお話を教えてくれていて、感謝しています」「いつも子供の事を思っているいろいろな対応されていることに感謝しています」等であった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	9	0	0	2
「はい」回答率は82%で高い評価であった。自由発言としては「転んで怪我をした時も、すぐ病院で受診して下さいました」等であった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	4	0	0	7
経験が無いので無回答とされた7名を除くと、「はい」回答率は100%で高い評価であった。自由発言としては特に無かった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	10	0	0	1
「はい」回答率は100%で極めて高い評価であった。自由発言としては「全ての保育士さんが好感度高いです、子供の接し方も丁寧で、たくさん事を教えてくれていて、感謝しています」「いつも子供の事を思っているいろいろな対応されていることに感謝しています、子供は園に行くのをいつも楽しみにしています、すくすく成長しています」等であった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	7	0	0	4
無回答の方を除くと、「はい」回答率は100%で高い評価であった。自由発言としては特に無かった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	10	0	0	1
無回答の方を除くと、「はい」回答率は100%で大変高い評価であった。自由発言としては「連絡帳や先生とのコミュニケーション、日々のお便りなどを通じて、園での子どもの過ごし方も把握出来て、安心感があります」等であった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	1	0	1
「はい」回答率は82%「どちらともいえない」回答率は9%であった。自由発言としては「日々誠実に保育して頂きトラブルもすばやく対応して下さい、大変感謝しています」等であった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	8	1	1	1
「はい」回答率は73%「どちらともいえない」回答率は9%、「いいえ」回答率は9%であった。自由発言は特に無かった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	<b>保育方針の「子ども主体の保育」を実践し、全職員で日々共有している</b> 保育理念・方針・目標の職員理解が深まるように、入職時やその後の研修で繰り返し説明・確認し、また、園内では全体的な計画や指導計画の年・月・週・日案に保育目標やねらい、保育内容を展開している。園長は子どもの主体性を尊重し、1人ひとりに合った寄り添う保育を実践し、職員と日々共有している。保護者には毎日保育内容を口頭や写真付エピソード記録、園だより等で子どもの成長を丁寧に伝えている。若い職員が多いので、今後さらに保育理念・方針の実践を振り返り、話し合う事で一層深く理解が進むように期待したい。	
	<b>施設長の責務と業務を定期的に振り返り、リーダーシップを発揮している</b> 運営ガイドラインに施設長の責務が明示され、「期待役割シート」には役割が具体的に明記しており、年2回自己評価によって行動を振り返り、次の目標を設定している。取り組んだ園の方向性は、①子ども主体の保育を展開できるように全職員と話し合う事 ②新卒の職員2名を育成すること ③働きやすい職場環境を整えること ④職員の過度の負担を軽減すること ⑤地域で園の存在感が高まる様に地域連携を深めること等である。若い職員が多いので園長から助言し教育することが多いが、今後は職員主体の運営に切り替えたい意向である。	
	<b>小人数のスタッフなので日々話し合いチームワークの良い運営が出来ている</b> 本社での決定事項を職員会議で説明し周知している。園内での検討内容は随時ミーティング等で検討し共有している。毎月の職員会議では全職員で情報共有することが目的で開催し、各クラスの報告、研修の共有、事故防止、行事の取り組みなど共有している。また、昼礼で日々の一人ひとりの子どもの成長や活動内容を全職員が共有している。週案・日案は各クラスでは意見を出し合ってを決め、園長が今のクラスの状況や園児の育ちを考えた指導内容となっているかなど助言している。小人数のスタッフなので日々話し合いチームワークの良い運営が出来ている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>6/6</b>
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者ニーズや職員ニーズを把握し、一つひとつ丁寧に対応している</p> <p>利用者ニーズは大きな行事の親子レクリエーション、運動会、夏祭り、発表会ごとの保護者アンケートで満足度や要望を確認し、また、日常送迎時の会話や保護者懇談会で要望を把握して、一つひとつ丁寧に対応している。職員ニーズは個別の話し合いや職員会議等で把握し、研修参加、職員の増員、職員負担軽減などに取り組んでいる。地域や業界の動向・ニーズは地区協議会や本社情報で把握し、待機児童の状況、無償化の情報など地域ニーズに対応出来る様に努力している。</p> <p>「園としての存在価値」を検討し、年度計画では職員の確保・育成を重視している</p> <p>中期計画を作成し、3年後の目標として、理念・方針の実践目標、保育計画の目標、園運営計画・目標、職員育成計画・目標等が計画されている。中でも、地域の中で「園としての存在価値はどうあるべきか」「職員の確保と育成・体制充実」等を重要課題としている。年度事業計画として①新人2名を個別に成長度に合わせて育成し、今後は、それぞれ主体性を発揮して失敗を恐れずにやってみることを目標としている。②働きやすい環境づくりとしては、話し合う機会を出来るだけ設定し、また、職員負担減に取り組み職員定着率が向上している。</p> <p>見守る保育の実践を記録・観察・評価の中で明確にすることが望ましい</p> <p>保育目標である「子ども主体の保育」を展開するために、子ども中心の遊びの発展を大切に考え、見守る保育を心掛けている。実践を重視し、園長も職員と共に子ども中心の環境設定、関わり方を実践し、職員に必要なに応じて助言するなど、日々の実践と会話によって保育目標の達成に向け努力している。研修では「見守る保育・記録・観察と評価」を職員が受講し共有しているので、今後研修を活かして実践の振り返りを保育日誌の中で、子どもの主体性の発揮の姿の記録と職員の関わり・環境設定の自己評価、明日への課題・目標を明確にすることが望ましい。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当



評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p><b>園内研修で運営ガイドラインを再認識し、保育業務にあたっている</b>          就業規則や運営ガイドラインに沿って法・倫理が遵守されるように保育業務にあたっている。運営ガイドラインには保育理念・方針・目標、倫理綱領、服務規程(基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得)、子どもの人権(保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など)、虐待防止、個人情報保護方針等を規定し、園内研修として運営ガイドラインを再確認している。また、冊子コンプライアンスコードを配布し、e-ラーニングを受け各自で再確認を行っている。</p> <p><b>保護者の苦情や要望に応える仕組みが整備され、日常的に改善に努めている</b>          苦情解決制度は重要事項説明書(苦情解決の体制、苦情解決の手順など)に記載し、入園説明会や保護者会にて説明している。玄関に設置されている意見箱のそばに苦情解決フローチャートが掲示されており、苦情や意見がどの様に活かされているか見える化されている。また、個人面談や連絡帳、意見箱等で苦情・要望を受け、苦情・要望が出た場合、内容によっては本部・区とも連携し解決する仕組みが整備されている。さらに、日常的に意向・要望を確認し、園内で改善策を話し合い園長が回答し保育サービス改善に努めている。</p> <p><b>地域の諸機関と連携して、地域ニーズを把握している</b>          運営ガイドラインに基づいて、子どもの人権擁護や虐待防止に関する園内研修を行い、年1回セルフチェックを実施して子どもの権利を大切にしている。また、虐待の疑いのある利用者情報を得た場合は各関係機関と本部と連携し対応する体制がある。地域連携では「区こども家庭あんしんねっと協議会」や保幼小中連携会議等に参加し、地域ニーズや動向を把握している他、園の独自な取組として子育て玉手箱を掲示して園での取り組みを保護者に周知すると共に育児相談も行っている。</p>		
カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>怪我防止は「動きたい子どもの先を見て対応する」様に徹底している</p> <p>事故防止対策はヒヤリ・ハット報告書、事故報告書をもとに、年齢別、子ども別、事故別に対策を具体化し、特に、「歩き始めの動きたい子ども」の先を見て対応する様に職員会議で徹底している。また、園内の整理・整頓、事故防止チェックリストによる35項目のチェックと改善、昼礼による情報共有など総合的に事故防止に努めている。感染症は夏なら食中毒、冬にはインフルエンザ、ノロ感染症など研修ガイドラインに沿って手洗い、消毒、空気清浄など徹底している。SIDS防止のためチェック表にて確認しうつ伏せ寝や敷き布団の注意を徹底している。</p> <p>毎月、避難訓練を実施し、大災害時の対応を保護者と共有している</p> <p>年間避難訓練計画をもとに毎月1回、地震や火災など想定し場所や時刻を変え避難訓練を実施している。大規模地震警戒宣言が発令された場合や火災・地震で園が被害に遭った場合、風水害の恐れのある場合など対処について重要事項説明書に記載し保護者と共有している。また、大地震等の大災害時の事業継承計画は本社で策定・見直し、体制、災害時対応チェック項目、情報のバックアップ、備蓄品、感染対策など計画を整備し大災害時に備えている。</p> <p>運営ガイドラインをもとに研修し、個人情報保護や守秘義務を徹底している</p> <p>運営ガイドラインやコンプライアンスコードに従って情報管理をしているが、具体的には紙ベースの資料は鍵付の書庫に保管し、事務所には必ず鍵をかけ、書類は原則外部持ち出しは禁止しであるが、必要な場合には園長の許可を得て、必ず元に返すことを徹底している。、パソコン情報はパスワードを設定し情報漏えいを防止している。個人情報保護方針は保護者には重要事項説明書で説明し、同意を得ている。職員は入社時に誓約書を提出し、退社時にも頂く様にしている。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		<b>評点(0000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>サブカテゴリ2(5-2)</b>		
組織力の向上に取り組んでいる		<b>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</b>
		<b>3/3</b>
<b>評価項目1</b> 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		<b>評点(000)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<b>カテゴリ5の講評</b>		
<b>新人は本社で研修を受け、コーチ役が個別に育成している</b> 職員の確保は本社が新卒・中途職員を採用し、園では非常勤や派遣の職員の面接を行い採用している。新人育成体系は配属前研修で理念の理解や心がまえなど基本の研修を受け、その後年4回基本習得の研修を受ける。園では園長がコーチ役となり何でも聞きやすい体制で1年間現場でOJT指導を行い、スタート研修項目・ベーシック研修項目等を学び、チェックシートにて自己申告の上、リーダーと共に確認し個人別の進捗に合わせて成長を図っている。また、当園では個人の習得度に応じて個別メニューで育成している。		
<b>職員は自己目標を設定し、熱心に研修に参加し、実践を通じて育成している</b> 「期待役割シート」に基本、中級、上級別に共通ベーシックスキル、専門スキルが具体的な内容として明示され、職員は自己評価を行い個人の目標を項目別に設定した上、園長の面談を受けOJT指導や研修を受け成長を図っている。年間研修計画を立て「見守る保育」「遊びの大切さ」「〇〇先生のこれからの保育」「乳幼児の発達心理」など毎月熱心に参加し園内で共有している。園では一人ひとりの子どもの成長と保育者の関わり、環境設定など意見を交わし、実践を通じて育成している。		
<b>職員の負担減、話しやすい環境、研修参加など働きやすい職場づくりに努めている</b> 働きやすい職場づくりとして取り組んだ内容は、①有給やシフト調整の希望をシフト作成時に配慮、また、休憩を交代で確保すること ②毎日の声掛け、職員の状況により随時相談に乗り、保育方法など出来る限り伝える ③行事終了時の機会に懇談会を行い、常に話しやすい雰囲気を作る ④給食会議や行事会議、昼礼、職員会議など話し合いの場を設け意見を出し合い全員で発言が出来るような場とする ⑤研修報告をすることで自身が学んできた研修の振り返りと共に、全職員にも学びの場とする。⑥行事の簡素化など職員負担の軽減などに努めている。		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(保育理念に基づく子ども主体の保育の展開)

これからの子ども達に求められる、自主性・自律性・意見の発信・自己表現力・他者意見の受け入れなどを保育目標として、保育実践の中で園長が中心になって子どもの主体性を育む保育を心掛けている。実践としては日々の子ども中心の遊びの発展を大切に考え、環境設定、関わり方を考え、日々の実践と職員間の会話によって情報共有し保育目標の達成に向け努力している。また、子どもの成長や発達度合いを、保護者とも共有し合い、共に成長を喜ぶことが出来る様に努めている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子ども主体の保育の展開の成果は保護者アンケートで確認する限り、「はい」と肯定的な回答が「園の活動は子どもの発達に役立っているか」91%、「活動は子どもが興味や関心を持つ内容か」100%、「食育」91%、「戸外遊び」100%、「保育内容の説明」100%の肯定的な回答であり、保育の質に関する保護者の満足度は高いと思われる。若い職員が多いので保育現場で園長が率先して実践し職員と話し合う事で保育目標の達成に努めている。今後は「見守る保育・記録・観察と評価の研修」を職員が受講し共有しているので、日誌記録の評価面でも、子どもの主体性の発揮の姿の記録と職員の関わり・環境設定の自己評価、明日への課題・目標の明確化など、次の計画がより充実するように望みたい。また、子ども主体の保育の進め方を保護者とも共有し保護者と連携して進めることも望みたい。

評価項目2  
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(職員の定着率の向上と育成)  
職員育成が急務であり、働きやすい職場づくりとして取り組んだ内容は、①有給やシフト調整の希望をシフト作成時に配慮、また、休憩を交代で確保 ②毎日の声掛け、職員の状況により随時相談に乗り、保育方法など出来る限り伝える ③行事終了時の機会に懇談会を行い、常に話しやすい雰囲気を作る ④給食会議や行事会議、昼礼、職員会議など話し合いの場を設け意見を出し合い全員で発言が出来るような場とする ⑤研修報告をすることで自身が学んできた研修の振り返りと共に、全職員にも学びの場とする。⑥行事の簡素化など業務を見直し職員負担の軽減等であった。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

働きやすい職場づくり取り組みは成果を職員アンケートで確認すると、①行事や勤務時間での職員負担が減った ②勤務年数に関係なく意見がいえ ③職員間で会話する機会が多くなる ④子ども一人ひとりの成長を全職員で把握できる ⑤保護者と連携を良くとっているなどの成果が確認でき、今年度は職員定着率が高まっている。今年度の2名の新人が次年度は先輩として新人のコーチ的な役割が担えるので、組織的な指導体系が充実する可能性が高いと思われる。今後の目標としては、自発的・主体的な創意を尊重した職員中心の運営を期待したい。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>パンフレットやホームページなどで、利用希望者に分かりやすい情報を提供している</p> <p>本社のホームページでは、ココファン・ナーサリーの全園で共通する理念「すべての人が心ゆたかに生きることを願い、今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します」と表明し、保育方針、保育目標、取り組みを明示している。各園のページには、保育料、一日の保育内容の流れ、主な年間の行事予定、よくある質問(給食、保護者が用意するもの、行事、延長保育など)が示されている。説明の時に利用希望者に配布するパンフレットにも、保育料や一日の保育の流れ、主な年間の行事予定などが記載されている。</p> <p>区に利用状況の報告を行うなど、入園希望者が必要な情報が提供されている</p> <p>毎月、園から区に対して利用状況を報告し、園の入園状況、入園可能数は、区のホームページで見られるようになっている。保育所の利用が初めての人や妊娠中の人、海外からの問い合わせなど、日頃、保育所の情報に触れることが少ない方々からの、多様な相談にきめ細かく対応している。具体的には、保育制度の仕組みなどについて説明し、場合によっては、他の利用先を紹介するなど、利用者の希望を活かすようにしている。また、福祉サービス評価推進機構の第三者評価を積極的に受けて、その内容を公表し、改善を図っている。</p> <p>入園希望者には個々の状況に応じた説明・相談を行っている</p> <p>利用希望の問い合わせや見学希望には、希望に沿ってできる限り曜日や時間帯を柔軟に対応している。また、突然の訪問にも丁寧に対応し、希望を聴き、園の見学をしてもらっている。具体的に利用を希望している方には、実際に見学に来てもらって、様子を観て確かめてもらうように勤めている。実際に見学しづらい場合、例えば海外からの電話での問い合わせにも、入所の手続きに至るまできめ細かく対応している。地域の方のニーズに応えるためにも、門扉に見学会のお知らせを掲示している。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>個別面談や入園説明会で基本事項を説明し、保護者の同意を得ている</p> <p>入園時には、個別面談や入園説明会で、「生活の手引き(重要事項説明書)」によって、保育園の基本理念や保育方針、入園登録料と保育料、登降園時のお願い、一日の生活の流れ、給食、入園までに保護者に準備していただくもの、家庭との連携、防災と安全管理、苦情と要望、個人情報の取扱いなどについて説明を行い、保護者からの同意を得ている。入園時に提出する書類のなかで、健康調査書、食物アレルギー確認書、生活状況調査書などから分かった個別事情や保護者の要望などは、面談記録などに残して、職員間で周知している。</p> <p>安心して保育を利用できるように、個々の状況に応じた慣らし保育を行っている</p> <p>慣らし保育については、開始初日から全日保育になるまでの進め方を分かりやすく示すモデル例を定めている。午前からの利用から始めて、給食・おやつまで8日程度を予定しているが、初めて家族以外の人と過ごす経験であることに留意し、親子ともに安心できる状態を確認し合いながら進めている。特に、慣らし保育の期間には、ミルクが飲めない、夜、寝ないなど、各家庭との育児相談にも丁寧に対応し、保護者が話しやすい関係づくりに心がけている。他園での保育経験者は、短期間で完了する場合もある。</p> <p>各家庭の事情を配慮した相談と対応で、保護者と子どもに安心を与えている</p> <p>保護者の転勤等の都合で退園する場合、子どもや保護者が不安にならない様に継続した支援を心掛けている。2歳児の保護者には、3歳児以降の保育の継続などについて、様々な家庭の事情や考え方をよく聞き取って、子どもと家族にとって最も良い保育を共に考えるために、個別の相談に対応している。また、退園・卒園した際にも、いつでも気楽に立ち寄り、育児相談など入園時と同じように対応できることを伝えている。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

12/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当



サブカテゴリ3の講評			
<p>保護者からの聞き取りを密に行い、一人ひとりの成長・発達の援助をしている</p> <p>入園時には入園説明の他に、保育士と栄養士も同席して面談を行い、持病やアレルギー等の把握をしている。保護者から聞き取りをした内容と入園までの生活状況を基に、一人ひとりの成長の過程や発達段階に合わせた指導計画を立案し、保育につなげている。計画通りに進まない場合は、日々の保育の中で修正するという意識を持ち、実践を優先した保育ができるよう心がけている。なお、月案は抽象的な表現で理解しづらい記載部分について、新規職員にもわかりやすい具体的な表記とするよう期待したい。</p> <p>個別の記録は独自の様式で記録し、把握と共有がしやすいよう工夫されている</p> <p>法人が独自に作成している個別の経過記録用紙には、入園時からの離乳食の進み具合や園生活に慣れていく様子が細かく記載されている。その後も0・1歳児は毎月、2歳児は月に1回経過が記録され、指導計画にも反映させている。また、発達段階の項目がチェック方式で、生活・全身運動・微細・認知：人間関係・言葉に分けて作成されており、チェック確認点と達成できた月齢が記載されていて分かりやすい。この用紙一枚で卒園までの様子がわかるように工夫されていて、職員間の把握と共有・引継ぎもスムーズである。</p> <p>子どもや保護者に関する情報は、職員間で共有し、保育に活かしている</p> <p>前日の延長保育での出来事や登園時に保護者から得た情報は、登降園チェック表に記入して担任に引継ぎ、その日の保育に活かしている。園児や保護者に関する情報やクラス内の出来事等は、毎週金曜日に昼礼を行い、事故報告・行事や制作について、災害対策等に関する報告等と合わせて報告や話し合いをしている。内容は昼礼ノートに記入し、出席していない職員には回覧され、周知に努めている。</p>			
サブカテゴリ5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ5の講評			
<p>個人情報保護の方針を説明し、写真撮影等も保護者からの同意を得ている</p> <p>入園時には、個人情報の取り扱いについて、保護者に対して「生活の手引き(重要事項説明書)」を使って個人情報保護方針を説明し、同意を得ている。また、園の行事等での写真撮影やその取り扱い方について、日常の様子を園内で掲示することや、園だより・クラスだよりに掲載することなどの了解を得ている。保育中の写真はホームページからIDとパスワードで、保護者以外の閲覧を制限できるように管理されている。また、公開行事等で保護者が記録するビデオや写真等については、SNS等への掲載など第三者への提供を控えるように依頼している。</p> <p>子どもの人権を守り、一人ひとりを尊重した保育を進めている</p> <p>法令を遵守し、子どもたち一人ひとりの個性や自分らしさを大切に、持っている力を伸ばす保育を行っている。一人の人間として尊重し、子どもの声に耳を傾け、余裕と配慮ある対応を目指している。保育のなかでの子どものプライバシーや人権への配慮を徹底している。例えば、プールを使う活動時には、フェンスに目隠しを設置し、また、日常の着替え時やおむつ交換時には、一度に脱衣して不安にさせることがないように、配慮を申し合わせている。自尊心を傷つけない言葉かけができるように職員の話合いをしている。</p> <p>虐待防止への支援は、研修会を実施し、職員の理解を深めている</p> <p>今のところ事例はないが、保育のなかで気になったことや、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときには、運営ガイドラインに沿って対応し、関係機関等との連携体制を整えている。園において子どもの変化が見られたときは職員間で共有し、保育所の役割として早期発見の対応フローチャートを職員間で確認している。職員は虐待関連の区主催の研修や本社研修などに参加し、職員会議や研修会で学び合う機会を持ち、共通の姿勢に努めている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○	非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○	非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○	非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<b>運営ガイドラインと各種のマニュアルを活かして、業務水準の維持向上が図られている</b> 運営ガイドラインや各種マニュアルは、月1回の職員会議で研修として内容の確認をしている。研修後、定着を図るためにクイズ形式を工夫して取り入れていることや、保育理念や方針、子どもの人権尊重などの職員への浸透を計るため、セルフのチェックシートが活用し、業務水準の維持向上が図られている。各種マニュアル類は職員が見やすい所に置いている。散歩を実施する予定や実施記録とマニュアルを連携させるなど、職員が日々の保育に活かせる工夫がされている。			
<b>職員が相談しやすく、話しやすい雰囲気の中、園長が職員の育成を進めている</b> 園長を中心に、保育の質と水準の維持向上のために努力している。少人数の職員集団のメリットを活かし、一人ひとりの職員と保育の進め方を相談し、きめ細かく指導している。職員からの意見は否定せず、やってみてどうかを共に確認し、今度はこうしてみようという意欲を引き出している。園長が進めようとしている職員同士で意見を聴き合える関係づくりや、園長と話しやすい関係づくりは職員にも理解が広がっている。職員アンケートによれば、職員同士で会話する機会が多くあり、個々の子どもの姿を職員全体で把握することができている。			
<b>運営ガイドラインやマニュアルは、毎年、見直して、サービスの向上を図っている</b> 提供しているサービスの基本事項や運用に関わるマニュアルは職員の意見や運営委員会での保護者代表の要望を踏まえて見直しを図っている。運営ガイドラインは系列園の代表が数名集まり、年間の実施状況を振り返り、修正の必要な個所を見直し、最新の運営ガイドラインに更新している。職員は、日頃の保育で感じたことや保護者との面談や会話の中から気づいた事を、改善に結びつけている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(○○○○○●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ●なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもが主体的に過ごせるように環境を整え、落ち着きのある空間づくりを心がけている</p> <p>少人数の認証保育園という点を活かし、その時に在園している園児の年齢や発達に合わせた室内環境の設定を心がけている。空間を間仕切りで遊びと食事のスペースに分けるなど、落ち着いて過ごす空間作りをしている。遊びのスペースにはクラス毎に玩具棚を置き、興味のある玩具を設定している。また、法人としての保育の方法や環境設定に関する研修の機会を多く設定し、職員が学び、また、運営ガイドラインや学研アプローチを職員は日々確認し実践することで、職員育成に努めている。</p> <p>子どもの主体性や意欲を大切に、発達に合わせた関わりを心がけている</p> <p>子どもの発達過程は、保護者からの聞き取りや連絡帳の内容、毎日の保育の様子で把握し、個別月案に記載され保育に活かしている。遊びや着脱などの生活習慣面では、子どものやりたい気持ちを尊重し、一人ひとりに合わせた援助を行っている。クラス内で新聞紙を利用した遊びをする際も、やぶる・ちぎる・丸める・散らす等の多様な遊び方をする中で、その子に合った遊び方で楽しむことができるように言葉がけや誘いかけをしている。年齢や発達に合った遊び方をする中で、身体の成長発達を促すことができるような関わりを心がけている。</p> <p>子ども同士のトラブルや配慮が必要な子どもには、丁寧な対応を心がけている</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルは、双方の子どもの話を聞いたり、子どもの気持ちを保育者が代弁したりして、お互いの気持ちを尊重した対応をするよう心がけている。情緒が不安定な場合は、子どもの気持ちを受け止めスキンシップを図る等の個別対応を行っている。また、配慮が必要な子どもには、発達段階や特徴を把握し、その子にわかりやすい言葉がけや援助をしている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当	
●あり ○なし		2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当	
●あり ○なし		3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当	
●あり ○なし		4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当	
評価項目2の講評					
<p>子どもの健康状態や機嫌等を、登降園の際に保護者と丁寧な引き継ぎをしている</p> <p>早番職員や担任は前日の子どもの様子を把握し、帰宅から登園までの様子の聞き取りをしている。登園時に保護者から得た保育に必要な情報は、登降園チェック表に記入し各クラス担任に引き継ぎをしている。引き継がれた内容はクラス内で周知され、その日の保育に活かしている。日中に怪我やトラブルがあった際は、状況に応じて担任が保護者の帰りを待って直接説明や謝罪をして、保護者との信頼関係を築くよう努めている。</p> <p>基本的な生活習慣の確立に向け、保護者との連携を大切にしている</p> <p>「基本的な生活習慣が確立した子」を保育目標のひとつに掲げ、入園前までの生活状況表・健康調査票と保護者面談で子どもの状況を把握している。離乳食は進捗表を利用し、家庭先行として、家庭で食べたことのある食材のみを園で提供している。また、排泄面でも家庭のペースに合わせながら、無理なくトイレに誘いパンツに移行できるよう進めている。子どもの発達についてや予防接種の必要性を園だよりや保健だより等で発信し、年齢に合った生活習慣が身につくよう努めている。</p> <p>保護者との対話を大切にして、信頼関係をつくり、高い評価を得ている</p> <p>活動状況、成長状況、その日の様子などを連絡帳や口頭で保護者に丁寧に伝えている。保護者との対話を大切にして信頼関係をつくり、気軽に話し合え、不安がないように配慮している。アンケートでも保護者の感想では「園での過ごし方が把握できて、安心感があります」と好評であり、集計結果でも「保育内容の説明は分かり易いか」の設問が100%「はい」と高評価を得ている。</p>					

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園の保育目標を基に全体的な計画を立案し、月案等の指導計画から保育につなげている</p> <p>保育目標(目指す子どもの姿)として「①基本的な生活習慣の自立した子②心も体も自立した子③自律した行動がとれる子④他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助できる子」を掲げ、0～2歳児の子どもたちの年齢や発達段階に合わせた内容で立案されている。保育の方法としては「保育に正解はない」という考え方から、職員が子ども主体の発想で、まず試してみること、導き出された結果が望ましい保育内容かを検証し、また、望ましい保育環境につながっているか検証する等、実践重視で取り組んでいる。</p> <p>子どもの主体性を大切に環境構成と保育を目指している</p> <p>子どもの主体性の尊重ということで、子ども自身がやりたい遊びができるように、各クラスに玩具棚を置き年齢や発達に合わせた玩具を用意する等、室内環境の整備を工夫している。遊びに入れない・何をしたいかわからない子には、誘いかけや援助をしながら見守る保育を行なっている。同じ玩具での遊びでも、様々な遊び方があることから、本来の遊び方とは違ったあそびをしている子どもの発想についても、否定や否定的な言葉がけをせず、肯定的に受け止めている。その遊びの様子を月案等に反映し次の保育に活かしている。</p> <p>情緒の安定をはかり、落ち着いて生活できるような保育を心がけている</p> <p>情緒が安定しない子どもには不安な気持ちを受け止め、普段通りの関わりをしながら常に気にかけるようにしている。下の子が産まれて不安定になっている場合は、下の子の話をしない・行動を褒める等、その子が主役であることを伝えるような関わりを保育者が行ない、子どもの状況に合わせ細やかな対応を心がけている。また、園外に散歩に出て、近くの公園で遊ぶ・消防署・交番で消防車やパトカーを見る等して気分転換を図り、地域との関わりを持つきっかけ作りもしている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は年間行事予定や園内表示で保護者に知らせ、多くの参加を得ている</p> <p>入園児に配布する重要事項説明書に年間行事が記載され行事の説明をしている。行事日程は月のおたよりや園内の掲示等で保護者に周知している。そのため、保護者だけでなく祖父母も参加する等、多くの参加者に楽しんでもらうことができている。保護者アンケートの「行事の日程は参加しやすいように工夫されているか」という問いには、できているに100%という回答が得られ、評価の高さを表している。行事後にはアンケートをお願いし、満足度の把握と意見を頂き、次回の行事企画に活かしている。</p> <p>参加者全員が楽しめるような内容を企画し、無理なく参加できるようにしている</p> <p>行事のための保育にならないように、行事計画書を作成し、子どもの気持ちが少しずつ盛り上がっていくような保育を心がけている。0～2歳児の保育園ということで、親子レクリエーション、夏祭り、発表会等、全体で楽しむことができるものや親子の触れ合いを中心とした行事内容となっている。夏祭りでは、地域とも連携を取り、氷屋さんに氷を頼み見たり触ったりして感触を行なうなど、夏の行事ならではの企画で、無理なく楽しんで参加できるよう工夫している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心して、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮している		○非該当
評価項目5の講評			
<p>職員全員で子どもの様子を把握し、口頭や連絡帳で丁寧に保護者に伝えている</p> <p>職員全員で連携を取り、他の年齢の子どもとも関わり、一人ひとりの子どもを全職員で把握している。保育時間が長い子にもスムーズに関わり保護者にも確実に伝達している。延長保育時間も現在は18時30分迄で、2名の保育士が健康状態や伝えたい事柄を、きちんと口頭と記録で漏れが無いように申し送りをおこない、担当職員は保護者のお迎え時に口頭と連絡帳で確実に伝え、保護者からも高い信頼を得ている。</p> <p>保育形態が変わることも無理なく自然な形で延長保育をおこなっている</p> <p>16時30分より1～2歳児が合同になり活動し、落ち着いた環境で17時より0歳児も合流し異年齢で保育を行っている。環境構成も0歳児～2歳児に合った遊具を用意し、子ども同士が関わって遊んだり、日中保育の延長のように自然な流れの保育をおこなっている。少人数の良さを活かし個々に合った関わりや配慮をして子どもが長い時間快適に過ごせるようにしている。また、安全面には十分に配慮し、どの年齢も楽しんで活動できるように遊具点検や設定を心がけている。</p> <p>子どもの欲求や状況に合わせて設定を工夫し環境を整えている</p> <p>子どもの状況や健康状態などを考えて環境設定を行い、遊べない子、不安そうな子には個々に応じて対応し、安心できる雰囲気づくりに努めている。1～2歳児の子どもが「したいことや遊びたいこと」を受け入れ子どもの満足感を味わえるようにし、意欲や興味を持てる保育に取り組んでいる。コーナー遊びもその日の子どもの状況を見て絵本を読んだり、動いて遊べる遊具設定をしたり変化をつけ楽しめる内容に心がけている。</p>			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>子どもが楽しく安心して食べることができる雰囲気や環境を整えている</p> <p>少人数の保育を活かして、食事はその日の状況で対応し、クラス毎で食事したり、1～2歳児クラスは混合で食事したり、お互いの年齢が刺激を受け、会話を楽しんで食べたりする様に、職員は柔軟に環境を整えている。また、食が進まない子には職員が言葉を掛け一緒に食べることで楽しい雰囲気を作り子どもの食事の意欲にも繋げている。また、担任だけでなく栄養士や他の職員も入って家庭的な食事環境を整え、給食会議、昼礼、職員会議などで全職員が食事内容などの意見を出し合い職員間の連携を図っている。</p> <p>子どもの発達状況を把握し、職員間の連携で安全な食事の提供をしている</p> <p>離乳食は中期食、後期食、完了食の子に応じて、職員が個々に援助し、安心してゆったりと食べる環境を整え、子どもは自分のペースで食事をしている。また、アレルギーのある子には保護者面談をして確認し、入所前に食物アレルギー対応、除去依頼書に記載してもらっている。食事の配膳には名前や顔写真のあるトレーで万全を期し、全職員に安全な食事の提供を周知・徹底している。また、医師の指示に従って定期的に検査や診断を受けてもらい把握に努めている。</p> <p>プランターで季節ごとの野菜を栽培するなど、食についての関心を深めている</p> <p>園では旬の食材に触れ五感で楽しむクッキングを年間を通して計画・実践している。年齢に合わせた活動をし、食材に触れ、つぶす、まぜる、まるめる、皮むきなど年齢に応じた経験活動をおこなっている。プランターで季節ごとの野菜を栽培して、現在はこまつなやブロッコリーなどを栽培して、生長から収穫の過程をみんなで楽しんで食している。また、給食の味付けに関しても薄味で鰹や昆布の混合だしで体に優しい味付けで提供している。砂糖の使用は芋類などは素材の味から出る甘みや野菜そのものの味を知ってもらうなど工夫している。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>日中の子どもの状況を把握し心身共に健やかに過ごせるように職員間で連携している</p> <p>職員同士が子どもの健康状態や家庭の状況などを昼礼や職員会議などで細かく報告し合い共有している。日中の体調や怪我の様子を連絡帳に記載し、また、口頭で詳細に保護者へ情報提供をしている。また、玄関ホールには都や区からの健康に関する情報を掲示し保護者に説明し、関心を持ってもらい共に子どもの健康維持に向けた取り組みをおこなっている。毎月の園だより、保健だよりも季節の内容(薄着・体づくり・風邪予防)などを掲載し子どもの健康推進に努めている。</p> <p><b>感染症の予防や乳幼児突然死症候群(SIDS)防止は徹底している</b></p> <p>毎日、外出から帰った時や食事前など徹底して手洗いをおこない、感染症の予防に努めている。毎朝、健康観察(顔色、食欲、機嫌、便の状態など)をおこない個々の体調を把握して保育に当たっている。感染症に関しては園で嘔吐や下痢が発症した時は事務室に移動し、担任や園長が対応し、保護者にも状況を伝えお迎えを依頼している。乳幼児突然死症候群の防止については眠っている間、職員は午睡チェックをおこない0歳児は5分間隔で1～2歳児は10分間隔で身体の向きや呼吸などを確認し、留意している。</p> <p><b>医療機関との連携を密にし子どもの健康維持に取り組んでいる</b></p> <p>健康診断は全園児が年2回、歯科健診は全園児が年1回、おこない嘱託医が健診している。健診結果は健康カードに記入し、保護者に確認してもらい返却後は園で保管している。その他毎月1回の身体測定をおこない、子どもの健やかな成長を実現するため、家庭と緊密な連絡を取り合い個別の対応も心がけている。保育の中で怪我の防止に努めたり、子どもには危険な所を散歩や遊びを通して言葉で伝え、また、職員が保育を振り返り、ヒヤリ・ハットを確認して安全保育に努めている。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>一人ひとりの子育て事情に配慮し、親身になって保護者支援をしている</p> <p>保護者の相談や不安なことなどは、親身になって早めの対応を心がけ支援に努めている。慣らし保育の目安も保護者の方と話し合い、個別対応し相談は常に行い個々の事情に配慮した支援を心がけている。個人面談では保護者からの話をじっくりと聞き、園での様子を細かく伝え、保護者と共に子どもの成長を喜び合える内容にしている。時には、保護者の様子や子どもの変化などで支援を必要とするときは、時間を取り親身になって相談にのり援助している。</p> <p><b>保護者同士の交流する機会を設け良好な関係作りに努めている</b></p> <p>行事は親子で楽しめる内容を企画し(親子レクリエーション・夏祭り・発表会など)参加してもらえるように、保護者には早めにお便りや掲示物で知らせし、全員参加の結果となっている。その機会に保護者同士が交流し、他の子どもの名前も覚え、一緒に関わって楽しめる行事になっている。毎回行事は保護者の負担にならないよう行事後に保護者アンケートを取り、保護者の意見を反映させ、次回の行事企画の参考に繋げている。</p> <p><b>保護者と共に子どもの発達や成長を喜び合えるよう取り組みをしている</b></p> <p>日々の活動をエピソードを交えて伝わりやすくお便り帳や連絡帳に記載し、口頭で直接伝えることで喜びを感じ合い、家庭からの様子も把握し、連携を取りながら子どもの成長を共有している。園からのお便りや日々の活動を写真と保育内容とで掲示し、保育の見える化にも工夫し取り組んでいる。職員は子ども一人ひとりの個性や子どもがやろうとしている姿を尊重し、できる限り「育ちの力」を伸ばせるように子どもを育てている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p><b>園の行事に参加してもらい地域の方と一緒に体験や交流ができる機会を設けている</b>          地域の方を園の行事(夏祭り)にお誘いし、参加を促し体験や交流の中で園を知ってもらう機会を作っている。また、地域の方が参加することで、職員以外の関わりが持つ子どもの生活の幅が広がる取り組みを心掛けている。今後、地域の子育て家庭に園の見学だけでなく活動などに参加してもらったり、他園との交流もおこなって、体験や交流を多く持てるような取り組みを行い、さらに、地域に根ざした保育園へと発展する様に期待したい。</p> <p><b>散歩や商店街で地域の方との交流を図り友好的な関係を作っている</b>          園の近くには公園があり、自然豊かな場所で散歩したり、近隣の公園にも出向き、地域の方と一緒に遊んだりする機会を作っている。散歩中は公園で出会った親子と交流し、継続的に良好な関係作りに努めている。玄関には散歩マップも分かりやすく作成してあり保護者と共有している。また、商店街はいろいろなお店があり栽培用の苗の購入や給食の食材の野菜を購入したり子ども達は機会あるごとに地域の方と触れ合い学べる環境がある。</p>		



事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	一人ひとりの食事の状況を把握し、ゆったりとした雰囲気の中で食事ができている	
内容①	担任保育者だけでなく栄養士や他の保育者も入って家庭的な食事環境を整え、少人数でゆったりとした環境の中で保育者、栄養士が子どもと一緒に楽しく食事をとり、また、職員はどの子に対しても食事状況を把握できている。給食会議、昼礼、職員会議などで全職員が食事内容などの意見を出し合い職員間の連携を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもの自主性や主体性を尊重した保育をしている	
内容②	子どもの声に耳を傾け、自主性や主体性を引き出すことを保育実践の方針として掲げ、全職員で実践を積み上げていく。散歩に出かけるとき、保育者が行き先を決めるのではなく、どこに行きたいかを子どもたちに語りかけ、思いを引き出している。また、消防車、電車の見学なども、1・2歳児のなかにある思いを言葉に紡いで、消防署や公園などに出かけている。その結果、公園での遊びが意欲的になり、子ども同士に良い影響が生まれている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域に出向いたり地域の人を招いたりして、触れ合う中で友好的な関係作りに努めている	
内容③	近隣の環境は公園や商店街が近くであり、心がけて地域の人との交流を持てるように機会を多く作っている。また、給食の食材の購入や野菜の苗を見に行くなど、子どもが楽しんで関わりを持ったり喜んで参加できる関係づくりを職員が仲立ちとなり取り組んでいる。この経験が子どもの生活の幅を広げることにも繋がりが友好的な関係にもなっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの発達段階や成長の過程を把握し、安心感の中で夢中になって遊び、子どもの主体性を尊重した保育をしている
	内容	少人数の保育園という点を活かして、職員全員で子ども一人ひとりの成長を把握し、子どもが主体的に活動できる環境作りを心がけている。一人ひとりの興味のある遊び等を観察し、子どもの遊びの様子から次の行動を想像して援助できるように心掛け、その積み重ねから、夢中になって遊びが展開できるような保育を目指している。愛着関係を大切に、安心感の中で、子どもの発想は肯定的に受け止め、行動を褒める等、その子が主役である関わりを行ない、基本的な信頼感の中から、子どもが自発的に行動し、好奇心や関心を育む保育をしている。
2	タイトル	保護者に、日々子どもの様子や成長を丁寧に伝え、また、心配事ごとには親身になって相談に乗り、高い信頼を得ている
	内容	保護者とコミュニケーションを密にとる様に心掛け、送迎時にはその日の子どもの活動や成長の様子を口頭や連絡帳で細かく報告し、また、保護者参加の行事の時は園長はじめ、保育士、栄養士が対話に努め、高い信頼関係へと繋げている。また、心配事ごとには親身になって個別に相談にのり、不安が取り除けるように努めている。保育者は全員で、どの子に対しても関わりを持って状況を把握しているため、保護者の安心感が高く、保護者アンケートでは総合感想「大変満足」73%「満足」以上の回答100%と大変高い評価であった。
3	タイトル	「職員一人ひとりを尊重する」「話し合いの機会を多く作る」「職員負担を軽減する」など働き易い・働き甲斐のある職場づくりに努めている
	内容	働き易い・働き甲斐のある職場づくりに取り組んでいる。主な取り組みは①毎日の声掛け、職員一人ひとりの状況を見て随時相談に乗り、保育方法など出来る限り伝えること②行事終了時の機会に懇談会を行い、常に話しやすい雰囲気を作ること③昼礼、職員会議など話し合いの場を設け意見を出し合い全員で発言が出来る場とすること④研修報告をすることで自身が学んできた研修の振り返りと共に、全職員にも学びの場とすること⑤行事の簡素化、勤務時間の見直し、有給やシフトの配慮など働き易く・働き甲斐のある職場づくりに努めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	指導計画における文章表現を分かり易く具体化していくことが望ましい
	内容	独自の個別経過記録には、一人ひとりの入園からの記録が詳細に記録され、その内容を基に月間指導計画を作成している。職員の入れ替わりで新卒の保育士等が増えたことにより、指導計画内容を確認・指導しているが、環境構成や保育者の配慮についての表現が抽象的なところがある。職員により捉え方に違いが出ることから、予想されることから、具体的な内容を記載することが望ましい。新卒の保育者にもわかりやすい指導計画を作成することで、さらなる保育の充実につながることに期待する。
2	タイトル	中期計画に基づく今年度の重要課題の達成が期待される
	内容	中期計画を作成し、3年後の目標として、理念・方針の実践目標、保育計画の目標、園運営計画と目標、職員育成計画と目標等が計画されている。中でも、地域の中で「園としての存在価値はどうあるべきか」について、地域の待機児童数や地域保育所数と規模などの現状踏まえて、当園としての中期的戦略目標を検討し重要課題を設定している。特に「職員の確保と育成・体制充実」が最重要課題として、計画的な職員確保と育成に力を入れている。働きやすい・楽しい職場環境の中で、職員が育ち、組織運営体制の充実が大いに期待される。
3	タイトル	研修参加・報告・共有の後に、職員のやりたいことを実践し、皆で評価・称賛する様に望みたい
	内容	年間研修計画を立て「見守る保育」「遊びの大切さと愛着関係」「OO先生のこれからの保育」「乳幼児の発達心理」「コーチ研修」「初任者研修」「フォローアップ研修」など毎月熱心に参加し園内で報告・共有している。自己評価では「研修報告で終わりではなく、研修で得た知識を実践で体験し無駄にしない必要がある」としているので、参加した研修内容で職員が「やりたいこと」や当園が目標とする「子ども主体の保育」は全職員で実践計画を考え、実践の振り返りを行うなど、効果的な研修の取り組みを期待したい。